

目 次

はしがき

第 I 部 文明の国か、普通の大国か

第 1 章 21世紀のドイツ外交・安全保障政策の座標軸——2

- 1 目的と分析対象 2
- 2 主導像とは 4
- 3 問題提起 8
- 4 分析方法 13
 - (a) (ソフトな) 構成主義に依拠する論拠／(b) 過程追跡を用いる論拠と分析手順／(c) 言説分析を用いる論拠／(d) 定性内容分析を用いる論拠と分析手順
- 5 本書の構成 29

第 2 章 ドイツの 2 つの顔——36

- 1 ドイツ外交の主導像モデルとメルクマール 36
- 2 理念、言説、政策行動の関係 46
 - (a) 理念とアクター／(b) 理念、議会論議と言説／(c) 制度へのまなざし／(d) 理念と言説、政策行動との関係
- 3 小 括 54

第 II 部 21世紀のドイツ外交安保政策の座標軸と方向性の変容

第 3 章 ドイツの外交安保政策の分水嶺——62

- 1 冷戦崩壊前後の CDU／CSU と SPD の外交安全保障政策観 62

- (a) CDU/CSU の外交安保政策観/ (b) SPD の外交安保政策観
- 2 「湾岸ショック」と NATO 「域外」派兵の発展 65
- 3 自製の更なる侵食と主要四政党の見解の接近 68
 - (a) 政策分析結果/ (b) 言説分析結果
- 4 小括 80

第4章 ヤヌス化の萌芽 86

- 1 軍事力を積極的に使用する危機管理観の獲得 86
 - (a) 政策分析結果/ (b) 言説分析結果
- 2 欧州域外への海外派兵 98
 - (a) 政策分析結果/ (b) 言説分析結果
- 3 小括 108

第5章 より多くの権力や対米自立、主体性を求めて 117

- 1 政策分析結果 117
- 2 言説分析結果 122
- 3 小括 132

第6章 「ヤヌス・ゲルマーニア」の誕生 138

- 1 ドイツの安全保障政策の「欧州化」の深化 138
- 2 歴史的背景に基づく禁忌の更なる弛緩 143
 - (a) 政策分析結果/ (b) 言説分析結果
- 3 派兵における民生部門と軍事部門の融合の確立——
ISAF/OEF 継続派兵をめぐる与党間の亀裂と「ネットワーク化
した安全保障観」の登場 155
 - (a) 政策分析結果/ (b) 言説分析結果
- 4 小括 168

第7章 権力政治志向の新たな強化 178

- 1 さらなる自立性への模索 178
 - (a) 政策分析結果/ (b) 言説分析結果
- 2 武器輸出に関する禁忌の弛緩 184

- (a) 政策分析結果／(b) 言説分析結果
- 3 さらなる軍事派兵の強化——シリア派兵 193
 - (a) 政策分析結果／(b) 言説分析結果
- 4 アフリカへの派兵 201
 - (a) 政策分析結果／(b) 言説分析結果
- 5 小括 207

第Ⅲ部 永遠のドイツ問題

- 終章 「ヤヌス・ゲルマーニア」の誕生と発展———220
- 1 政策分析の結果の考察 220
 - 2 言説分析の結果の考察 228
 - 3 「ヤヌス・ゲルマーニア」の系統樹 244
 - 4 予防観の「波及」 248
 - 5 政党政治や政党システムと主導像 251
 - (a) 形状／(b) メカニズム
 - 6 小括 258

主要参考文献

あとがき

索引